

■ちーびし

○執筆者紹介

<シンポジウムパネラー>

■稲村 公望 (いなむら こうぼう)

中央大学大学院公共政策研究科客員教授。

2005年3月末に、郵政民営化論に反駁して日本郵政公社理事を退任。

1947年奄美・徳之島生まれ。郵政省に1972年に入省後、主に電波、情報通信行政に従事。人事院行政研究員として76年から2年間ポストンに滞在して、フレッチャースクール外交法律大学院で修士号取得。福岡、名古屋、バンコク（日本大使館一等書記官）等での勤務を経て、基盤技術研究促進センターの出資部長として、先端技術の投資部門に従事。

郵政省国際課長としてスイスとの往還の後、沖縄郵政管理事務所長として、沖縄振興策の企画立案に参加。大臣官房審議官、政策統括官（情報通信担当）を経て、日本郵政公社発足と同時に同公社常務理事に就任。その間、埼玉大学で、国際関係論を7年間客員教授として留学生を指導。現在、財団法人電気通信普及財団の理事長と、時事通信社の内外情勢調査会の講師を併せて務めている。

■河田 真智子 (かわだ まちこ)

1953年東京生まれ。島旅作家、カメラマン。島愛好家の会「ぐるーぶ・あいらんだあ」を主宰、機関誌「あいらんだあ」を発行。国内外の島をおよそ300島歩く。重度の障害を持つ娘との車椅子の旅も楽しむ。主な著書に『島旅の楽しみ方』『南の島へ』『なつほの島旅』などがあり、写真展『生きる喜び、脳障害児の16年』『バリ島、光のなかで』などを開催。

■清成 忠男 (きよなり ただお)

1933年東京生まれ。1956年東京大学経済学部卒業。

1973年から法政大学経営学部教授。1996年から法政大学総長（2005年3月まで）。この間に、沖縄振興審議会会長、国土審議会委員、(財)大学基準協会会長、(社)日本私立大学連盟副会長などを歴任。現在は、法政大学学事顧問。

■平田 隆義 (ひらた たかよし)

1937年鹿児島県名瀬市生まれ。1961年中央大学法学部政治学科卒業。1984年名瀬市議会議員選挙当選。3期10年に及び名瀬市議会議員として、名瀬市議会議員総務委員会委員長、同副委員長、同産業経済委員会委員長、議会選出名瀬市監査委員らを歴任。1994年名瀬市長就任、1998年、2002年に再選し、現在3期11年目を迎えている。地域力と民間活力を促進するため、「市民との協働」を掲げ、市民と行政が一体となったまちづくりに取り組んでいる。また、全国市長会評議員、九州市長会理事、日本港湾協会九州支部連合会副会長、鹿児島県港湾協会会長等、要職を多く務めている。

■山田 誠 (やまだ まこと)

1946年香川県生まれ。1981年大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程単位取得後退学。2004年鹿児島大学法文学部長に就任、現在に至る。専門は経済政策、地方財政、地域政策比較。従来の研究はドイツの地方財政が中心。近年は介護保険、高齢者福祉とともに、島嶼の研究に従事している。研究代表として鹿児島大学プロジェクト「島嶼圏開発のグランドデザイン」をたちあげ、2005年には科学研究費補助金の成果として『奄美の多層圏域と離島政策』（編著）を刊行した。

<シンポジウムコーディネーター>

■矢野 利明 (やの としあき)

1942年愛媛県生まれ。1969年北海道大学工学部機械工学科卒業。2000年鹿児島大学工学部長。2003年鹿児島大学副学長。2004年には国立大学法人鹿児島大学理事・副学長に就任し、現在に至る。専門は燃焼工学、都

市熱環境工学, リモートセンシング。日本機械学会フェロー, 日本ヒートアイランド学会理事などを務めている。1987年には, 日本機械学会論文賞を受賞した。

＜研究調査レビュー＞

- ①生年・出身地, ②所属, ③専門領域, ④研究業績,
⑤奄美と関係した活動
の順番で掲載しております。

■西 隆一郎 (にし りゅういちろう)

- ① 1961年・鹿児島
② 鹿児島大学工学部海洋土木工学科環境システム工学講座助教授
③ 海岸工学 (海岸環境保全)
④ 1) 西 隆一郎・萩尾和央・山口 博・岩根信也・杉尾 毅: 水難事故予防のための離岸流調査に関する基礎的研究, 海岸工学講演会論文集第50巻, pp. 156-160, 2003
2) 宇多高明・西 隆一郎: 侵食ホットスポット地形を伴う海浜変形について - 志布志湾押切海岸の局地的な海浜侵食例 -, 海岸工学講演会論文集第49巻pp. 581-585, 2002
3) 菊池昭男・宇多高明・西 隆一郎・芹沢真澄・三波俊郎・古池 鋼: リーフ海岸における海面上昇起源の急激な海浜変形, 海岸工学講演会論文集第49巻, pp. 596-600, 2002
4) 大富 将範・大牟田一美・西 隆一郎: ウミガメ保護に関する海岸工学的考察, 第48回海岸工学論文集, pp. 1201-1205, 2001
⑤ 赤木名港エコ・コースト検討委員, 1998年

■栄 勝仁 (さかえ かつひと)

- ① 1972年・鹿児島県
② 名瀬市立朝日中学校社会科教諭
③ 商法・教育学
④ 「代表訴訟制度」
「三位一体改革時代に必用となる適正規模への学校

再編の必要性」

- ⑤ 奄美は, 多様で多層的な文化を持っています。文化・経済・社会・地理などさまざまな分野をサテライト教室で学習し, 奄美に住むものとして地域とリンクさせながら理解を深めています。

○編集後記

■ 昨年12月に開催しました公開シンポジウムの状況を、早く読者の皆様にお知らせしたく、山田研究科長自らの陣頭指揮のもと、事務局で大急ぎで編集しましたところ、シンポジウム内容の掲載を、奄美ニューズレター春季号に何とか間に合わせることができました。録音再生、校正等、急いで作業をしていただいた方々には、感謝申し上げます。3年間の総決算として開催したこの公開シンポジウムについて、読者の皆様からの多くのご意見を期待します。

また、前号に引き続き、奄美サテライト教室の科目等履修生である栄先生(名瀬市立朝日中学校教諭)の論文を掲載しました。三位一体改革の中での学校再編のあり方を、現場からの視点で、オリジナリティ豊かに綴ったこの論考についても、奄美の学校関係者等からご意見いただければと思います。

鹿児島大学大学院人文社会科学部研究科では、2006年度から、徳之島町に奄美サテライト教室徳之島分室を開設することになりました。徳之島分室は、徳之島町の生涯学習センターに設置します。2004年度に名瀬市に奄美教室を開講し、徳之島まで拡大することができたわけです。情報提供として紹介しましたが、学びたいという意欲に燃えた人に、どしどし利用していただければ幸いです。(事務局, 北崎)

■ 今回の表紙は、公開シンポジウムの様子です。会場となった鹿児島大学稲盛会館には、鹿児島大学の学生、教員、一般の方々など、延べ130名ほどにご来場いただきました。参加いただいた皆様には、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。(今徳)

研究責任者 山田 誠

奄美ニューズレター

発行 鹿児島大学

編集責任者 奄美委員会

AMAMI News Letter

発行日 2006年3月23日